

校長室だより
NO. 7
平成28年5月9日

すべては光る

梅園小学校長
たか すりょうへい
高 須 亮 平

いつまでも 梅園小の仲間だよ ^{わか}和賀菜さん

とても悲しい出来事がありました。5年7組の河邊和賀菜さんが、5月2日（月）の午後2時30分、11歳の一生を閉じたのです。和賀菜さんは心臓に疾患を持っていましたが、4月30日（土）から何らかの理由で高熱が続き、それが原因となったそうです。学校としても、私個人としても、このように子どもの命が絶たれるということほど悲しく辛いものはなく、この1週間ほど、何をやるにしても、つい先日まで元気だった和賀菜さんのことを思い出さない日はありませんでした。

和賀菜さんは、よく私にも話しかけてくれました。笑顔でおもしろい話をしてくれ、私がそれに答えると、今度はそのことを楽しい仕草で表現してくれたりもしました。明るく、人なつっこく、ユーモアもあり、誰にも優しい気持ちを持って接することができました。今年度は5年生となり、高学年の仲間入りをしました。そのことから、年度初めから進んであいさつをしてくれたり、どちらかと言えば苦手な給食も、完食しようががんばったりしていました。先日、私が給食時に学級の様子を見に行くと、和賀菜さんが笑顔で自慢げに完食した食器を見せてくれました。その和賀菜さんの姿がなぜか思い起こされてなりません。

右の写真は、今年度の7組の学級写真です。前列中央が和賀菜さんです。これが、学校で友達と撮った最後の写真になってしまったことは、たいへん残念です。これからまだまだ楽しいことをたくさんできたとする言葉もありますが、この写真は、「和賀菜さんが、いつまでも梅園小学校の仲間だよ」ということを表しています。そんな意味もあり、この写真は、私にとっても、きっと学級の子もたちにとっても、特別に大切な写真になることでしょう。



また、4月28日（木）は、校内で絵をかく会を行い7組の学級写真（前列中央が和賀菜さん）

ました。この日は、和賀菜さんが学校で生活した最後の日になりました。右の和賀菜さんの自画像は、しっかりとしたタッチでかかれています。画用紙いっぱいのダイナミックな絵です。また色のぬり方も丁寧です。この上手にかけた絵を誰に見せたかったのかな。きっとお父さんでありお母さんだったでしょう。



和賀菜さんの自画像

昨年度、和賀菜さんが1か月近く入院していた折、病院へお見舞いに行ったことがありました。そのときに、偶然ですがピンクの花のフラワーアレンジメントを持って行ったところ、和賀菜さんが「ピンクのお花だ。ピンクのお花だ」と何度も言い、とても喜んでくれたことを思い出しました。和賀菜さんはピン

裏面へ

ク色が大好きだったのです。そして、退院した後、次の手紙を私に届けてくれました。この手紙をもらった私もとてもうれしい気持ちになったことを忘れません。

こうちょう先生へ
おはなを ありがとうございます。
ピンクのおはなで うれしかったです。
わたし がんばりました。 こうべ わかな

和賀菜さんのお父さんの話によると、和賀菜さんは、この11年間で何度も入院し、何度も手術をしてきたということです。その都度、和賀菜さんはがんばってきたのです。全く手紙の文のとおりで

す。このように言葉で言うのは簡単ですが、和賀菜さん本人にとってはたいへんだったことでしょう。そう思うと、和賀菜さんはこれまで病気と闘い、本当によくがんばってきました。

和賀菜さんの終祭（仏式で言う通夜）は5月4日（水）、告別式は5月5日（木）に、ご自宅でしめやかに執り行われ、ご両親、お兄さん、ご親族、そして多くの友達やその保護者、教師らが見守る中、和賀菜さんは旅立っていきました。その時に流れていた、和賀菜さんが大好きだったドラえもんがとて悲しく聞こえました。「きっと天国でも、梅園小学校の友達と同じように、和賀菜さんらしくがんばってくれるだろうな」と思わずにはいられませんでした。

5月9日（月）の全校朝会は、和賀菜さんを追悼する会としました。和賀菜さんの遺影をスクリーンに映し、私から全校の子どもたちに和賀菜さんのお話をしました。その後、子ども一人一人が、静かに黙祷をして和賀菜さんの冥福を祈りました。和賀菜さんは、これからもきっと梅園小学校の子どもたちの心の中に生き続けていくことでしょう。私は、子どもたちも含め、私たち一人一人が和賀菜さんのことを思うとき、その思う人のすぐそばに和賀菜さんがいると思うのです。和賀菜さんは、いつまでも梅園小学校の私たちの仲間なのです。

次は、梅園小学校で和賀菜さんといつも一緒に、和賀菜さんが大好きだった学級担任の市川友美先生の文です。

わかちゃんが残してくれたもの

「わかちゃんを呼びにきました。」

当たり前のように聞いていたけれど、この言葉から多くの人に親しまれていた和賀菜さんの人柄のよさがうかがわれます。交流学級の友達と和賀菜さんと一緒に学習できることをとても楽しみにしていて、いつも笑顔で迎えに来てくれました。そんな友達と元気よく交流授業に出かけていく姿はとても微笑ましく感じられました。

教室でも素敵な場面がたくさん見られました。友達の脱いだ服が裏返っていると、お母さんのようにさっと表向きにたたみ直してくれた和賀菜さん。先生の後ろに回ったかと思うと、頼んでいなくても小さな手で肩を揉んでくれた和賀菜さん。授業で友達のよかったところに気付き真剣に発言する和賀菜さん。大好きな曲に合わせて手足をいっぱい伸ばして踊る和賀菜さん。苦手な野菜をもりもりと食べ、完食した給食の食器を嬉しそうに見せてくれた和賀菜さん。

何事にも全力で前向き。世話好きで親切。可愛らしい仕草。最高の笑顔。わかちゃん、私たちにたくさんの宝物を残してくれたね。本当にありがとう。

